

災害時のペット対策

参考資料：
市ホームページ
「ペットの防災対策をしましょう」



飼い主の役割とは

飼い主は、ペットを飼う権利とともに果たさねばならない義務を常に意識し、平常時から災害に対する「十分な備え」をしましょう。

耐震補強等により自宅の被害を最小限に抑え、また物資の備蓄をすることで、災害時でも在宅で生活できることが、ペットにとっても大切なことです。

常に飼い主としての責任を果たす「心構え」を持ちましょう。



ペットを守ること

災害からペットを守ることができるのは、飼い主だけです。

自分が無事であることとともに右記の4点が重要となります。



飼い主自らの安全を確保すること

→ 災害時にペットを適切に飼育するための絶対条件

ペットと共に避難（同行避難）

→ 災害時はペットを落ち着かせ、逸走・けが等に注意

平常時から適正な飼育（健康面・しつけ等）

→ 最も有効な災害対策

ペットの身元証明

→ マイクロチップ等で飼い主が誰か分かるように

防災でのキーワード：「自助」「共助」

大規模な災害では、行政機関等の公的機関による支援が始まるまでの間、自助や共助により乗り越えなければなりません。

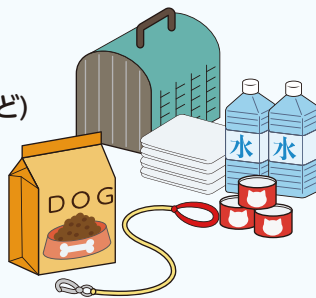
飼い主には、まず自分の安全を確保し、そのうえでペットの安全と健康を守り、他者に迷惑を掛けることなく、ペットを適正に飼育管理する義務があります。

自助

ペットの分の
食料なども最低5日分以上
備えておきましょう

備えるべき物品の例

- ペットフード、水
- トイレ用品（シート、猫砂など）
- 予備の食器
- 療法食、薬
- ケージ、キャリーバッグ
- 首輪
- など



共助

近隣住民や
飼い主同士の助け合い、
広域の助け合い、
他の組織を交えた助け合い

災害時のペットに関する事例

災害時

- 家屋倒壊・転倒家具によりペットが死亡した。
- 床への飛散ガラスで人もペットも足にけがをした。
- 外飼い猫が被災当日から自宅に戻らず、同行避難できない。



避難先

- 避難してしばらく、人の支援物資はあるが、ペットフードの支援はなかった。
- 避難所で犬が吠えて迷惑を掛けるので、止むを得ず車中で避難生活をした。
- 糞の放置や毛の飛散などが原因で、他の避難者とトラブルにあった。
- 避難所にペットと共に避難したが、特定食（療法食など）の入手に苦労した。
- 犬がケージに慣れていないため、過度なストレスを与えてしまった。
- 犬がペットシートに排尿・排便せず苦労した。
- 他人や他の場所、他の動物に慣れないため、どこにも預けることができなかった。
- 感染症の予防接種をしていないペットが多いため、感染が心配だった。